

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



双方向の情報交流

町田市議会

所属: 志政クラブ

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-22

☎042-724-2127

議員定数削減ならず報酬削減可決

市議会第 3 定例会が終了しました。議員提出議案の議員定数を 2 名削減する案は賛成少数で否決（私は賛成）となりました。他方、議員報酬関係議案では私は、市長案に反対し、単純に期末手当を削減するとした議員提案に賛成しました。その議員案が採決で可決しました。本会議の採決に先立ち、これらの双方の議案は、私が所属する総務常任委員会に付託されたことで、質疑を行った後、委員会の評決において上記の立場で各々討論を行いました。議員定数削減の討論では、議員費（用）を削減する意味では、議員定数を減らす手法で行えば、行政改革にも取り組みやすいと主張しました。議員報酬の議案では、「市長案は他の同等都市との比較を軽んじた見地を取っていること、また、月額報酬の一部を引き上げる方法を取っていることで、削減内容がわかりにくい」と討論で意見を述べました。

それ以外の議案では、行政提案と議員提案の双方がぶつかり合いになったものがありました。公園駐車場利用の有料化に関するものですが、受益者負担で赤字は発生しないと言っていました。大幅な赤字となり、今回の改正案をもってしても赤字を前提にした内容になっていましたので私は本会議で反対（討論）しました。そこで、元の状態に戻すことを求めた議員提出議案に賛成（討論）しました。

特に、「昔の市政では理事者が金銭的な責任（注：市長自身の減給措置）を表明して議案の成立を求めたものだ」と訴えました。採決の結果、残念ながら市長案支持が多数であり、無駄な行政の支出が続きます。

決算は委員会でも不認定判断

定例会の最終日、決算特別委員長報告では、私たち委員（定数 10 名で私も委員の 1 人）がそれぞれに提起した意見が述べられ、委員会では決算が不認定となったことが説明されました。私は委員会に続いて本会議でも賛成し、賛成多数で「認定」となりました。先の委員会では共産、民主の会派から詳細な反対討論が相次ぎ、他に討論がなく、私が急きょ賛成討論を行ったものです。

私の討論では、陸上競技場のサッカー場化、公園駐車場の有料化実施など問題点は山積している。公会計制度はまだ導入したばかりで今後の見守りが必要である。ただし、昨年度、最大の事業は市庁舎移転建設を前寺田市長時代に決め、その新庁舎が無事完成したことにより、議会も委員会でのネット中継を始めて、開かれた議会となっていることで、総括としては賛成討論としました。

自分自身数十件の意見を提起していましたが、その内、観光コンベンション協会に関して、「行政から多額の補助を受ける、観光コンベンション協会の事業において、地元の民間旅行業者の事業と重なるものがあり、事業の見直しを図りたい」と提起しました。



観光バス発車場の集合場所・バスターミナル

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E103-13 吉田つとむ（市議会議員）

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



常時、インターン生を募集
集中です。



携帯QRコード
でブログ閲覧

インターン生記：池場 早貴

「災害から学ぶこと」という題で、町田消防署課長の高山幸夫さんの講演を聞きました。東日本大震災や阪神大震災などの震災を通して、消防士やレスキュー隊の仕事についてや、自分たちがするべきことなどについて学びました。



東日本大震災から「津波」に注目が集まっています。しかし、東京での大地震のときは津波より、阪神大震災のときに起きた大規模な火災に注意しなければいけないという話がありました。大規模な火災が起こってしまえば、消防士の方たちは火を消すことに手一杯で、人々を助けることまで手が回りません。被害を抑えるため、多くの人を助けるために自分たちで火災が起きないように行動しなければいけません。また、阪神大震災で亡くなったかたの 8 割が自宅で亡くなった そうです。倒壊やたんすなどの下敷きになってしまうことが原因です。避難所へ逃げたとしても、

そこにはプライベートな空間がないため多くの方がストレスを抱えてしまうそうです。自分の家に安全にいられることが 1 番いいことということです。これらのことから、自宅の耐震性、防災対策ということを私たちが考えなければいけないことだと学びました。

消防士やレスキュー隊の仕事の話で印象に残っていることは、すべての人を助けることはできないということです。目の前に人がいても、助からない状況で あった場合や自分たちが危険にさらされるときは、助け出たくても救助をやめるように指示が出るそうです。親族の方からしたら、何で助けてくれないんだと いう気持ちになり実際に責められることもあると聞きました。体力的にきつい仕事だとは思っていましたが、精神的なものもとても大きいことが分かりました。私たちは消防士、レスキュー隊は人を助けて当たり前と思っていますが、もっと仕事を理解することも必要だと感じました。今回のようなお話を聞くことはないの、とても参考になりました。私たちが何をしなければいけないかという話もあったので、今日のような講演を学校などでも行っていただきたいと思いました。

第 32 期研修生 池場早貴(昭和女子大 3 年生)

* このレポートは、町田市青少年健全育成地区委員会南ブロック 6 地区委員会合同主催の講演会(講師は前ハイパーレスキュー隊長の高山幸夫氏。講演時は町田消防署課長ですが、10 月付けで他地区に転勤)に私と一緒に出席した際のもので、同期インターン生の野村 南さんも同行しており、そのレポートは次回に掲載します。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ どうぞ、町田市政や議会に関するご要望や、ご意見をお気軽にお寄せ下さい。

Mail : yoshidaben@gmail.com mobile: yoshidaben@docomo.ne.jp